



<b>教育目標</b> ねらい (到達目標)	時には自己表現も含めた自由な課題制作や、選択した課題に向けて取り組ませ到達レベルに合った期限と水準を求めることにより、社会の厳しさなども体感してもらう。	
<b>授業の概要</b> (授業期間全体を通じた授業の進め方)	コンテスト、作品制作、フォトシューティング、サロンで必要な技術を経験させ身に着けさせる。また、国家試験実技課題の練習を1年間で繰り返し行い基本技術と自信を身につけさせる。	
<b>評価方法</b>	担任の指定した基準を提出期限含め審査する。担任だけでなく外部（プロ・一般）の投票や意見も反映させた評価方法をとる。	
<b>受講心得</b> (準備学習の具体的な内容)	課題の完成や到達レベルには自己研鑽が必要なことを心掛けさせる。	
<b>資格対応</b>	コンテスト入賞、美容師国家試験の合格を目指す。	
<b>関連科目</b>	美容実習1、美容技術理論1・2、衛生管理	
<b>テキスト 及び 参考文献</b>	美容実習1、美容技術理論1・2、衛生管理、パーソナルカラーリスト検定テキスト、美容師国家試験「技術の解説」、美容師国家試験「受験案内」、美容衛生読本	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験  
の有無について

美容師免許を有し美容所において勤務

# 授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	2 (60時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	高橋 秀典[無]						

## 授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～4	2章感染症各論 / 主な感染症①	呼吸器を介しての感染症を具体例を中心に確認させる。
5～8	主な感染症②	消化器、血液、動物を介しての感染症を具体例を中心に確認させる。
9～12	主な感染症③	血液、動物を介しての感染症を具体例を中心に確認させる。
15～17	具体的な対策の例	現実の予防策と、店内感染の対策を説明。
18	4編 衛生管理技術 1章 消毒総論 消毒法とは	病原微生物がと非病原微生物、消毒の原理を解説。
19～20	消毒の意義	汚染・感染・発病と消毒について、又殺菌・消毒滅菌・防腐の定義を覚える。
21～23	理美容の業務と消毒との関係	各消毒に関する法の規定と、怠った場合の危険と責任を説く。
24～25	消毒法と適用上の注意	消毒法の種類、殺菌に必要な条件、病原微生物の抵抗力、消毒薬保存上の注意。
26～27	2章消毒法各論 / 理学的消毒法	紫外線・煮沸・蒸気消毒の詳細、その他の理学的消毒法の紹介。
28～31	化学的消毒法	エタノール・次亜塩素酸・逆性石鹼、両性界面活性剤製剤・グルコン酸クロルヘキシジン・その他化学的消毒法の紹介。
32～33	優れた消毒法の条件	優れた消毒法の条件と、消毒を行う際の注意点。
34～35	3章消毒法実習 / 各種消毒薬	消毒薬の概要、器具の使い方、常備する消毒薬と希釈の仕方。
36～37	理美容所の消毒の実際	サロンにおける消毒お原則、消毒設備、用途に合った消毒の選定、手指の消毒、サロンの消毒の現状。
38～39	理美容所の消毒の実際	清潔保持と清掃、洗剤による洗浄、洗い場の構造、カットした毛の処理と汚物箱の洗浄、衛生害虫の駆除。
40～41	5編 衛生管理実践例 1章理美容所における衛生管理要領	衛生的取り扱い、自主管理体制を紹介・確認。
42～43	美容所の自主管理点検表	自主管理点検表の詳細を確認。
44～45	消毒法実習	実際の消毒薬や消毒設備を使って汚染器具の消毒を行う グループワーク。
46～50	国家試験対策問題	過去問題、練習問題を解説。

<b>教育目標</b> ねらい (到達目標)	サロンの現状を教えつつ衛生管理の重要性を理解させる。実際の消毒ができるところまで教育する
<b>授業の概要</b> (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書を中心に、画像・関連資料を紹介し、理解の動機付けを図る
<b>評価方法</b>	授業態度、定期試験の成績、まとめプリントの完成度を見る
<b>受講心得</b> (準備学習の具体的な内容)	学んだことが現実に自分と関係してくることを意識するよう指導するので、将来の自分をイメージしながら受講することを薦める
<b>資格対応</b>	美容師国家試験受験資格
<b>関連科目</b>	関係法規、美容保健
<b>テキスト 及び 参考文献</b>	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験  
の有無について

# 授業計画表

教科名	保健						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	高橋秀典[有]						

## 授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	皮膚の生理機能 外力や光線に対する	外力や光線に対してどのように保護しているかを学ぶ
3	体温調節作用	暑いとき寒いときの皮膚がどのようになるかを学ぶ
4	知覚作用	皮膚の感覚を学ぶ
5～7	分泌排泄作用	皮脂と汗の分泌、及び酸膜を理解する
8～9	呼吸と吸収作用	皮膚からはどのような物質が吸収されるのかを学ぶ
10～11	免疫・再生作用	傷がなぜ治るのかを学ぶ
12～14	皮膚と全身状態	体内の器官が障害を受けると皮膚の変化を学ぶ
15～16	皮膚の水分と脂の状態	しわ、乾皮、あぶら性について理解する
17	ホルモンの影響	男性ホルモン、女性ホルモンが作用することを理解する
18～19	皮膚の保護と手入れ	ひげそりあとの手入れ、ふけ症について学ぶ
20～21	皮膚の異常と接触性皮膚炎	皮膚疾患による変化を学ぶ
22	温熱・寒冷の障害	熱傷、凍傷を理解する
23～24	色素異常、角化異常	原因が何かを学ぶ
25～27	化膿菌、ウイルス、真菌による異常	感染症による皮膚疾患を理解する
28～29	衛生害虫の影響と、毛、爪の異常	害虫による皮膚の異常を学ぶ
30	皮膚の腫瘍	皮膚の癌について理解する

教育目標 ねらい (到達目標)	皮膚疾患について理解する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	皮膚についての多面的な部分を学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	美容実習 美容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の  
実務経験  
の有無について



教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品の知識を身につける
授業の概要	香粧品の原料、肌の香粧品、毛髪にかかる香粧品を中心に テキストの内容についての理解を深めさせる
評価方法	定期テスト 出席状況 授業の受け方・態度
受講心得	定期テストで60点以上の合格
資格対応	理容師、美容師、国家試験受験資格
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。  
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。  
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。  
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。  
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。  
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	名古屋市立中学校において理科を指導。
------------------	--------------------

# 授業計画表

教科名	文化論						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	水野亮[無]						

## 授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	日本ファッション文化史 現代Ⅱ	戦後経済復興により、シーズンごとの流行色などをアピールの消費を促した。若者ファッションの流行。
3～5	現代Ⅲ	女性の社会進出、性のボーダレス化。茶髪の流行とガングロ、マスカラ、ツケマツゲ多様化するファッションを学ぶ
6～7	古代エジプト、古代ギリシャ 古代ローマ、古代ゲルマン	地中海地方を中心に古代文明が発生、各文化圏の髪型、ファッション化粧を知る。
8～9	中世ヨーロッパ	キリスト教の身体への否定的思考が強く、体を覆い隠す文化であった。
10～11	近世Ⅰ 16世紀	ルネサンスの時代制圧から個人の人間に目が向けられた。ファッションは貴族たちに独占された。
12～13	近世Ⅱ 17世紀	王とカトリック教会の権力を誇示する時代。長いかつらが流行。ベルサイユ宮殿
14	近世Ⅲ 18世紀	王朝を中心に華麗な貴族たちのファッション、大臣の髪型、スカートファッション。
15～16	近代Ⅰ 18世紀末～19世紀初	フランス革命により市民の権利意識が高まり貴族的なファッションはすたれた。
17～18	近代Ⅱ 19世紀	産業革命によりブルジョア社会が拡大した。女性は巨大なスカートがはやった。
19～20	現代Ⅰ 1910～1920	パーマネントウェーブが登場。男性は背広が定着していく。スポーツが流行していく。
20～21	現代Ⅱ 1930～1940	第2次世界大戦に向かい、自由な気風は影を潜めた。
22～23	現代Ⅲ 1940～1950	映画スターの髪型の影響が大きく、ショートカットが流行する。コールドパーマネントウェーブが普及
24～26	現代Ⅳ 1960年代	若者文化に寄り添うヘアスタイル、ビートルズ、モヒカン等があげられる。
27～28	現代Ⅴ 1970年代	多種多様な若者文化とヘアスタイル。日本人デザイナーの活躍。
29	現代Ⅵ 1980年代	女性の職場進出を反映して実用的なスーツが流行。
30	現代Ⅶ 1990～2010	ベルリンの壁が崩壊し国や政治経済の枠組みが崩れた時代。多様なファッションが反映した。

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の  
実務経験  
の有無について

# 授業計画表

教科名	美容技術理論						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	3 (90時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	岡村清美[有]						

## 授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	3章 ヘアデザイン	ヘアデザインの基本的を考える。
3～4	4章 ヘアカット①	ヘアカットとは、シザー、レザーの使い方などを美容技術の重要事項として伝える。
5～6	ヘアカット②	美容刃物、カットの正しい姿勢を理論的に説明。
7～8	ヘアカット③	ブロッキング、ヘアカットの基礎理論は重要事項として伝える。
9～12	ヘアカット④	ベーシックなカット技法はバリエーションとして、シザー、レザーによるカット技法はサロンの現状含めて伝える。
13～15	9章 ネイル技術①	ネイル技術概論、ネイル技術の種類はサロンの現状含め伝える。爪の構造と機能は暗記させる。
16～18	ネイル技術②	爪のカット形状は暗記させる。ネイル技術と公衆衛生はサロンの現状含め伝える。
19～21	ネイル技術③	カウンセリングはサロンの現状含め伝える。ネイルケアの基本的知識を伝える。
22～24	ネイル技術④	アーティフィシャルネイルの基本的知識を伝える。手と足のマッサージは実演を絡めて覚えてもらう。
25～26	11章 日本髪①	日本髪の由来、各部の名称、種類と特徴などを紹介。
27～28	日本髪②	日本髪と調和、装飾品、結髪道具などを実物を触りながら紹介。
29～30	日本髪③	結髪技術、日本髪の手入れを紹。かつらは実物を触りながら紹介する。
31～32	12章着付けの理論と技術①	着付けの目的、礼装、着物と季節、着物の色々を説明。
33～34	着付けの理論と技術②	帯、小物、着物各部の名称は詳細までしっかり伝える。着物のたたみ方を紹介。
35～36	着付けの理論と技術③	着付けの一般的要領、留袖、振袖の着付け技術を手順的に説明。
37～38	着付けの理論と技術④	帯締め、帯揚げの結び方、男子礼装、羽織・袴の技術を手順的に説明。
38～39	着付けの理論と技術⑤	羽織の紐の結び方、女子袴着付け技術を手順的に説明。
40～44	着付けの理論と技術⑥	婚礼着付けの際の注意事項、和装花嫁、洋装花嫁は詳細までサロンの現状含め伝える。
45～90	技術理論 筆記試験対策授業	技術理論1・2のまとめと練習問題による総理解。

<b>教育目標</b> ねらい (到達目標)	美容技術を理論的に理解することの重要性をしっかりと学ばせる。実体験では覚えきれない技術や理論を覚えることにより効率的な実習授業へと導く。	
<b>授業の概要</b> (授業期間全体を通じた授業の進め方)	ふつう教室にて面接形式の授業を行う。必要最低限の知識は、時に練習プリントと小テストを交え覚えてもらう。	
<b>評価方法</b>	実技授業での理解度を観察し、定期試験結果で判断する。	
<b>受講心得</b> (準備学習の具体的な内容)	教科書を中心に行う。定期試験では60点以上を合格ラインとしている。	
<b>資格対応</b>	美容師国家試験受験資格	
<b>関連科目</b>	美容実習、美容総合技術	
<b>テキスト 及び 参考文献</b>	公益社団法人日本理容美容教育センター 美容技術理論1・美容技術理論2	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度		○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験  
の有無について

美容師免許を有し美容所において勤務



<b>教育目標</b> ねらい (到達目標)	時には自己表現も含めた自由な課題制作や、選択した課題に向けて取り組ませ到達レベルに合った期限と水準を求めることにより、社会の厳しさなども体感してもらう。	
<b>授業の概要</b> (授業期間全体を通じた授業の進め方)	コンテスト、作品制作、フォトシューティング、サロンに必要な技術を経験させ身に着けさせる。また、国家試験実技課題の練習を1年間で繰り返し行い基本技術と自信を身につけさせる。	
<b>評価方法</b>	担任の指定した基準を提出期限含め審査する。担任だけでなく外部（プロ・一般）の投票や意見も反映させた評価方法をとる。	
<b>受講心得</b> (準備学習の具体的な内容)	課題の完成や到達レベルには自己研鑽が必要なことを心掛けさせる。	
<b>資格対応</b>	コンテスト入賞、美容師国家試験の合格を目指す。	
<b>関連科目</b>	美容実習1、美容技術理論1・2、衛生管理	
<b>テキスト 及び 参考文献</b>	公益社団法人日本理容美容教育センター発刊 美容実習1・2 美容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発刊 技術の解説	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度		○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力		○	○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の  
実務経験  
の有無について

美容師免許を有し美容所において勤務

# 授業計画表

教科名	美容総合理論【関係法規制度】						
対象科	美容科	学年	2年	必選	選択	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	山口 孝[無]						

## 授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	法制度の概要と公衆衛生法規の概要	物理的強制とは何かを理解させ、次に法と道徳の違いを理解させる。法が成立する過程を理解させ国家とのかかわりを理解させる。
3～4	衛生行政の概要	法と行政、衛生行政の種類と衛生行政機関（保健所等）について理解させる。厚生労働省の機構。
5～6	小テスト	
7～8	小テストの解説、美容師法①	美容師法の目的と歴史、美容師法の体系について理解させる（法律上の定義）
9～10	美容師法②	美容師（国家試験、免許制度について。資格関連法規。）
11～12	美容師法③	美容所（美容所の開設、業を行う場所について。業務関連法規。）
13～14	美容師法④	違反者等に対する行政処分（業務停止・免許取消等の行政処分について）
15～16	美容師法⑤	立入検査と環境衛生監視員（立入検査について）
17～18	小テスト	
19～20	小テストの解説、美容師法⑥	公衆衛生のあらまし、美容の業務と消毒の関係
21～22	美容師法⑦	美容所の環境衛生
23～24	美容師法⑧	消毒法総論
25～26	関係法規	美容師法の今後の課題（美容師法をめぐる論議、美容業と法規制）と生活衛生関係営業の料金等の規制や同業組合、振興計画、独立経営に際して必要となる諸規定、地域保健や感染症関連の法規等。
27～28	小テスト	
29～30	総復習	美容師法の復習（美容師法の難しさ、美容師法の内容）

<b>教育目標</b> ねらい (到達目標)	理容師の資格は法律により規定され、理容師でなければ理容を業とすることはできない。このため理容師に必要な法知識を習得する必要がある。1年生の時（関係法規・制度）に法制度の概要からわが国の衛生行政、理容師法の要求する理容師・理容所についての規定を理解したが、理容師法以外の関係法規についても知識を深めることとする。
<b>授業の概要</b> (授業期間全体を通じた授業の進め方)	「理（美）容師養成施設の教科課目の基準の運用について」を意識して授業を進める。美容師法以外の関係法規は、他の教科課目においても同様の内容が含まれていることから、法規として何を学ぶために学習するのかを整理した上で、美容に関係する「一般衛生法規」、「公衆衛生法規」、「生活衛生法規」を中心とした内容にする。
<b>評価方法</b>	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
<b>受講心得</b> (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中は所定の名札を着用すること。</li> <li>・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。</li> <li>・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。</li> </ul> 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
<b>資格対応</b>	美容師国家試験受験資格に準ずる
<b>関連科目</b>	関係法規・制度、運営管理
<b>テキスト 及び 参考文献</b>	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の  
実務経験  
の有無について

# 授業計画表

教科名	美容総合理論【運営管理】						
対象科	美容科	学年	2年	必選	選択	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	山口 孝[無]						

## 授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	オリエンテーション	授業の進め方と心構えについて
3～4	障害者福祉	障害者福祉の概要・障害者基本法・障害者総合支援法
5～6	高齢者福祉	高齢者福祉・老人福祉法
7～8	労務管理①	美容業と労務管理、労務管理に関する知識
9～10	労務管理②	美容業と人事管理、美容業と社会保障制度
11～12	経営管理①	企業の形態、美容業と料金
13～14	経営管理②	美容業と経理、美容業の簿記と税務
15～16	マーケティング①	なぜマーケティングを学ぶのか、マーケティングの基本的な考え方
17～18	マーケティング②	マーケティング戦略、競争とポジショニング
19～20	マーケティング③	美容業のためのマーケティング、戦略の立て方
21～22	顧客満足経営	顧客満足経営とはどのような経営なのか、売上志向から顧客志向へ
23～24	サロン起業①	サロンの起業とはどのようなものか、サロンの起業には何が必要か
25～26	サロン起業②	繁盛店を考えてみよう①
27～28	サロン起業③	繁盛店を考えてみよう②
29～30	美容ビジネスの将来	今後の美容業はどうなっていくのか

<b>教育目標</b> ねらい (到達目標)	2020年3月美容師国家試験より「運営管理」が試験課目に追加されます。運営管理とはその名の通り（店舗）を運営し、（人・モノ・お金）を管理することであり、この授業では、大きく分けて業務を行う人を行う場所（施設）の2つを対象として、規制のしくみを考えます。人として「しなければならない」事や「してはならない」事の決まりを同様に施設（経営者）の視点からも考える。
<b>授業の概要</b> (授業期間全体を通じた授業の進め方)	「理（美）容師養成施設の教科課目の基準の運用について」を意識して授業を進める。最近の生徒は日常のあいさつができない等社会人としてのマナーに欠けている部分が多く見られることから、ビジネスマナー等「接客法」をより詳細に学習する。
<b>評価方法</b>	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
<b>受講心得</b> (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中は所定の名札を着用すること。</li> <li>・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。</li> <li>・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。</li> </ul> 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
<b>資格対応</b>	美容師国家試験受験資格に準ずる
<b>関連科目</b>	関係法規・制度、運営管理
<b>テキスト 及び 参考文献</b>	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

**成績評価基準**

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※学修に取り組む関心度			○
<b>【知識・理解】</b> ※教科の理解度	○	○	
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※専門知識の理解度	○		
<b>【思考・判断・創造】</b> ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験  
の有無について

# 授業計画表

教科名	美容総合理論【他】						
対象科	美容科	学年	2年	必選	選択	単位数	4 (120時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	高橋 秀典[有]						

授業計画		
回	項目	内容
1～10	法規・制度 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
11～20	法規・制度 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
21～30	技術理論 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
31～40	技術理論 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
41～50	技術理論 ワークブック③	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
21～60	美容保健 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
61～70	美容保健 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
71～80	物理・化粧品化学 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
81～90	物理・化粧品化学 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
91～100	衛生管理 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
101～120	衛生管理 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
121～130	衛生管理 ワークブック③	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
131～140	衛生管理 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
141～150	物理・化粧品化学 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
151～160	美容保健 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
161～170	技術理論 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
171～175	法規・制度 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
176～180	筆記対策模擬テスト	総合評価確認のため5科目を模擬筆記試験形式で行う。マークシートの記入要領も指導。自己採点をさせ欠点を洗い出す。

教育目標 ねらい	国家試験筆記対策として当該科目の理解度を高める。
授業の概要	ワークブック、練習問題教材を使用して多角的に理解させる。
評価方法	事項採点、自己解決の方式もとるが、模擬テストでは細分化したテスト結果を総合評価（順位発表）をして勉強の取組自体を考えさせる。
受講心得	1か月の期間にどこまで受験対策ができるかを常に心得させます。
資格対応	美容師国家資格取得を目指す。
関連科目	関係法規・制度、衛生管理、美容保健、物理・化粧品化学、技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行・・・関係法規・制度、衛生管理、美容保健、物理・化粧品化学、技術理論1・2、ワークブックなど

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験  
の有無について

美容師免許を有し美容所において勤務